

受講番号： J ● - ▲▲▲

氏名： 笠松剛士

事例の経過記録

日時 (担当者)	本人の状況・変化	援助者の働きかけ	分析・考察・所感
【初期】 4月1日 (サビ管 A・支援者 B・C) 4月2日 (サビ管 A・支援者 B・C) 一年後	自宅にいた際はひきこもりが数年続いていた。 母に送られ、事業所内までくるが、「わー」と声をあげパニックをおこし、施設内に入れない。 やっと、事業所内に入ることが出来ソファで過ごすことが出来るようになる	相談員より状況を聞き取りしている。 本人が緊張しないよう対応しようとした。 本人が嫌がればすぐに支援を中止して、我慢強く対応した。	情報が少ない中で、今後どのような対応をしたらよいかと内部で検討した。 時間をかけて、まずは事業所の門に入るところからのスタートだと考えた。 とにかく事業所に入ることを目標に、スモールステップで対応していき成功したと感じた
【中期】 8月9日 (サビ管 A・支援者 B・C) 10月1日 (支援者 B) 12月1日 (支援者 C)	週5回利用できるようになり、特定の職員とであれば食事もとれるようになる。 日中活動中に2～3回程度「わー」と大声をあげて壁に頭突きをしてしまう。 帰りの掃除の時間に「わー」といってパニックで椅子を投げることもあるが今は一緒に掃除をしている。	本人の落ち着ける環境を整備した。 慌てて駆け付け、制止するも間に合わない。 ゴミが見えやすくするように、細かくした紙ごみを散らかして、一緒に掃除をする。	複数での職員では情報量が多くパニックになってしまうので担当を決めて対応した。 頭痛がありその痛みを軽減するために壁に頭突きをするのか？それとも薬を貰いたくてしているのか？ ゴミが見えれば、みんなと一緒に掃除することが出来て納得しているようだ。だいぶ慣れてきた。
【後期】 (初期から7年経過) 9月1日 (管理者)	半年間昼食を取れなくなり。日中過ごす部屋に閉じこもっている。	(新年度に入り、これまで対応していた支援者 B・C が異動となった) 支援者 D が対応しても食べていただけない。管理者が対応しても同じ	A さんとの関係性が出来ていないので、関係づくりをしていこうと考える。

10月1日 (管理者・サ ビ管・支援者 D)	日中活動中に壁に頭を打ち付ける。回数が増える。「わー」といって椅子をひっくり返し、自分もひっくり返ることがある。	管理者・サビ管・支援者が声掛けしたり、そばにいくとパニックを起こすのでとめに入る。	どうしたら、Aさんと関係性が気付けるのか悩む。
11月1日 (管理者・サ ビ管・支援者 D)	「わー」と声をあげ、柱の角にめがけて頭を打ち付ける。	気付いた時には遅く、打ち付けている。	傍に居てもパニックを起こし、離れていてもパニックを起こしてしまう。一体これからどうやって支援をしていけばよいかわからなくなっている。

枠を追加したい場合はコピーしてお使いください。